



わたしも
ひびくと

寂しい中心市街地を
元気に「街」に
するために

中心市街地の大型スーパーが閉店したこともあり、寂しくなっています。市全体の「まちおこし」も必要ですが、商店街でも頑張ってもらいたいと思います。今のままではインターネットで買い物したりすることが多くなるなど、津山の「街」に出掛けて買い物することが少なくなってしまうので、これでは「街」は元氣になりません(田町・女性)

問い合わせ先 産業支援課 32・2080



▲スイーツフェスタ

中心商店街の状況は、郊外型大型店の進出や人口減少、さらには景気の低迷のあおりも受け、厳しい状況です。市としても、作州津山ふるさと交流物産展や大学生によるMIMA商店街、スイーツフェスタなどの各種イベントにかかわり、にぎわいの創出や中心市街地活性化に取り組んでいます。また、中心市街地活性化協議会の立ち上げ準備の開始など、まちづくりに対する機運が高まっています。市も関係機関と連携を取りながら、さらに活性化を進めていきます。

わたしのおすすめ

一緒にごんごまつりを企画しませんか

第30回津山納涼ごんごまつり企画部会

部長 村上雅人さん(東新町)

副部長 笠井 勲さん(南新町)



ふるさと津山を離れていても「ごんごまつりのころには津山に帰ろう」と思ってもらえるまつりにしようと、毎年イベント・ステージやロケ

ション、花火などの企画・運営をしています。昨年のごんごまつりは「見るまつり」から「参加するまつり」へと一人でも多くの市民に参加してもらおうと、さまざまなイベントを企画しました。

今年のごんごまつりでは、広く一般の市民にも参加していただき「ごんごまつり」が今まで以上に盛り上がるように、みんなでアイデアを出し合っていきたいですね。自分が企画した花火の打ち上げを見ることができるのは感動ですよ。

また、平成13年には三木道三、平成15年には超

新塾などの芸能人が出演するイベントを企画しました。今年も今話題の人たちを呼んで、自分たちも大いに楽しみましょう。

花火・PRは全体会議で、そのほかロケーション・環境、イベント・ステージ、おどりの3つの分科会に分かれて活動していきます。一緒にごんごまつりの新たな歴史を作り上げてみませんか。

第31回津山納涼ごんごまつり企画部会

部会日 毎月2回(全体会議・分科会)

ところ 津山商工会議所(山下)

対象 18歳以上(高校生は不可)

締め切り 3月31日(火)まで

問い合わせ先 津山納涼ごんごまつり実行委員会事務局(観光振興課内) 32-2082

参加者募集!



未来をひびく 津山人

にぎわいを取り戻すために

中心市街地活性化プロジェクト委員会 委員長 水島 豊さん(野介代)



中心市街地活性化協議会の設立に向けて、さまざまな施策を検討している中心市街地活性化プロジェクト委員会。今回は、委員長の水島さんにお話を伺いました。

津山の中心市街地の現状は?

昔は郊外に大型店がなかったこともあり、県北地域のほとんどの人が津山の中心商店街で買い物をしていました。それぞれの商店街にはおの個性があり、特徴がありましたね。元魚町商店街にはその名前のとおり魚屋が立ち並び、魚のにおいが

漂う昔ながらの市場のような商店街でした。「ミラー商店街」と言われた銀天街には、大阪の心斎橋商店街から視察に來たりしたものです。しかし、今では街並みもすっかり様変わりしてしまいました。空き店舗も多くなってしまったので、人通りも少なくなり、寂しい状況ですね。中心市街地活性化プロジェクト委員会(プロジェクト委員会)はどのような活動をしているのですか?

現在、商工会議所や行政、中心市街地の地権者などの関係者が、中心市街地活性化協議会の設立に向けてさまざまな検討をしています。プロジェクト委員会はその準備特別委員会の下で活性化地域や活性化計画などの具体案を検討し、検討結果を準備特別委員会に提言する役割を担っています。



現在は活性化計画などに盛り込む具体的施策の基本となる津山の中心市街地のコンセプトを検討しています。津山の歴史や文化への思いが込められたものにしようと思ふまで知恵を出し合い、議論を重ねているところです。



▲現在の中心市街地の街並み 昭和54年ごろの銀天街

中心市街地がにぎわうために大切なことは? 「にぎわい」というものは人が集うことで生まれるものです。そのためにも「街中」で暮らす人が増えることが活性化のポイントだと考えています。環境問題や高齢化社会の到来などもあり、やがて車社会は成り立たなくなるのではないのでしょうか。その時には歩いて暮らせる街が求められるようになるでしょうし、歩いて暮らせる範囲が暮らしの基礎になると思います。そのように考えていくと中心市街地が進むべき方向が見えてくるはずです。また、津山には多くのすばらしい観光地がありますが、それぞれが点で孤立していて線や面になっていません。それでは観光客にとって不便で二度と訪れられないでしょう。各観光地を巡回するような観光バスを

設けるなど、観光資産を有効に活用していくことも、街ににぎわいをもたらすには重要なことです。中心市街地が活性化すると、その周辺にも「にぎわい」が波及するはずです。いつの日か各地域の拠点とも連携して、津山全体での「まちづくり」にも取り組みたいですね。「街」に行くのは一大イベントで、みんなワクワクしたのではないのでしょうか。そのころのように中心市街地ににぎわいが戻る日が楽しみです。